

北前船 ジオラマ通じ理解

市民団体が出前授業



④北前船の模型を中心にした横幅約4メートルのジオラマ。4月に厚田区で開業する道の駅でも展示される
⑤講師を務めた(左から)明楽みゆきさん、高野宏康さん、石黒隆一さん

【石狩】江戸期から明治期にかけて北海道と関西を日本海航路で結び、国内物流の大動脈だった「北前船」の歴史を学ぶ出前授業が5日、花川北中で行われた。1、2年生約160人が体育館で大型ジオラマを見学し、北海道の開拓を支えた北前船に思いをはせた。ジオラマは市民の手作りで、4月27日に厚田区で開業する「道の駅石狩 あいろーど厚田」で一般公開される。(木村直人)

手作りの力作

花川北中生「すごい」

北前船の歴史を地域振興に生かす市民団体「北海道



北前船プロジェクト」の主催。全国団体「現代版北前船プロジェクト」(札幌)の実行委代表でチェンバロ奏者の明楽みゆきさん(59)、小樽商科大の学術研究員高野宏康さん(43)、石狩市郷土研究会事務局長の石黒隆一さん(62)の3人が講師を務めた。北前船は2017年、日本遺産として文化庁に認定されている。ジオラマは横幅約4メートル、1892年(明治25年)

ごろの厚田区古潭の漁場を再現。石黒さんが新潟、石川県で取材して再現した北前船の木製模型(長さ約120センチ、幅約40センチ、高さ約110センチ)を中心に、浜益区の人形作家八田美津さん(75)が作った人形約80体が並ぶ。約1年半かけて制作中で大半が完成したため、教材として利用した。同日はビデオカメラで撮った船の内部を大型画面に投影。石黒さんは「船底は水に強いアカマツ。実物と同じ5種類の木材を使いました」などと紹介。生徒に「完成品を見に、ぜひ道の駅に来て」と呼び掛けた。高野さんは、北前船の船主は北陸出身者が多かったと説明し、「道民の先祖は北陸生まれが多い。北前船は北海道やみんなのルートでもある」と指摘。道内からの積み荷は、ニシンやサケ、昆布などの海産物が中心だったと解説した。2年生の中島唯花さん(14)は「細部まで作り込まれたジオラマがすごい。石狩にも北前船が寄港したことを初めて知り驚きました」と話した。